
持続可能な水産養殖のための種苗認証

Seedlings Council for Sustainable Aquaculture

(SCSA 認証)

審査報告書 (種苗生産・養殖場)

クライアント名
安高水産有限会社

日付 : 2019 年 5 月 17 日

認証機関名
ビューローベリタスジャパン株式会社

目次

1. クライアントに関する情報	3
2. 審査機関に関する情報	3
3. 審査結果要旨	3
4. 全般的な所見	4
5. 推奨する今後のプロセス	6
6. 付属書	6

1. クライアントに関する情報

クライアント名	安高水産有限会社 (契約番号 4171916)
クライアント ID	BV-KU-FA-0002
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町深浦 1888
認証範囲	【メンバー】安高水産有限会社 【活動】養殖場 【拠点】愛媛県南宇和郡愛南町深浦
認証魚種	マダイ Japanese red seabream (Pagrus major)
会社概要	昭和 25 年愛媛県宇和郡愛南町 (旧城辺町) で鮮魚商として創業後養殖業も営む。昭和 51 年安高水産有限会社として創業し、平成 14 年に鮮魚部門を廃止、養殖事業部へ一本化した。マダイの養殖に特化、独自の養殖管理システムを開発し種苗の受入から養殖、出荷工程管理を行っている。陸上の PC 管理以外にも、船上ではタブレット端末による IT 化を取り進め、データ解析による改善活動に力を入れている。

2. 審査機関に関する情報

審査機関名称	ビューローベリタスジャパン株式会社
所在地	神奈川県横浜市中区日本大通 18 番地 KRCビル 8F
審査チーム	
佐久間 智恵子	主任審査員
審査日	2019 年 2 月 27 日、2 月 28 日、3 月 1 日
審査の種類	第一回年次審査

3. 審査結果要旨

審査規格	持続可能な水産養殖のための種苗認証(SCSA 認証) 原則と基準 ver.1.4
結果	
重大な不合格	なし
軽微な不合格	7.1.6 (解除済み)
条件付合格	なし
観察事項	なし
認証単位	認証範囲参考
所有の動き	種苗購入 → 養殖 → 成魚販売
CoC への接続点について	種苗の購入・・・認証を受けた人工種苗生産者から購入 活魚船・活魚車による受入 成魚の販売・・・育成した種苗を養殖した成魚の販売 活魚車で顧客の生簀あるいは水槽への納品、あるいは締め処理後梱包して納品

4. 全般的な所見

全般的な所見	
I. 種苗生産者、養殖業者に対する原則と基準	
1. 種苗	<p>認証を受けた人工種苗業者より種苗を購入する。</p> <p>要求事項の生産履歴は、種苗生産年・受入運搬船エリアでロットを付与し「養殖管理システム」にデータベースとして保管している。情報管理方法は前回から変更なく、継続して適切な情報が保管されていた。</p> <p>DNA 鑑定実施の為に、成魚の鱗を生産ロット毎に冷凍保存していた。</p>
2. 対象人工種苗飼育管理	<p>ロットごとに、全ての記録がネットワークに入力管理されている。水槽、生簀の分割、統合も明確に管理され、最新の情報が常に「養殖管理システム」で把握できる状況である。死亡魚数を含め、尾数情報も記録されている。認証要求事項に基づき情報修正の手順を構築し、これに基づき実施し、修正記録一覧も確認できた。</p> <p>水産用医薬品の使用は、極力抑える方針である。農林水産省、水産試験場その他の最新情報に基づき、使用する医薬品を確認、決定している。</p> <p>水産用医薬品の購入、投薬記録も、「養殖管理システム」に全て情報が入力され、確認できた。</p> <p>医薬品は、施錠可能な保管庫にて保管している。前回審査以降、使用期限切れの医薬品は手順に基づき適切に廃棄処分されており、マニフェストが確認できた。</p> <p>逃亡管理として、魚長により蓋網の変更、潜水土による網破れの確認、台風への備えなどがなされていた。不明魚率は要求事項を下回り、適切な管理状況を維持していると判断できる。</p> <p>種苗受入から養殖、出荷に至るまで、ストレスや損傷を極力抑え、魚類福祉の考え方をもち適切な環境での飼育を実施していた。現場での聞き取りにおいても、適切な理解のもと実施していることが確認できた。</p>
3. 環境配慮	<p>海上における水質調査は、「愛南町水域ポータルサイト」から日々のデータ収集・異常発生時メール・FAX による情報入手が行われている。また、愛媛県水産研究センターからデータ収集も行っている。</p> <p>魚網の防汚剤は、許可されている範囲で様々な種類を試し、環境負荷を含めて検証を続けている。</p> <p>死亡魚の処理は、毎日冷凍保管を行い、一定期間で愛南町漁協へ処理を依頼している。適切な方法で実施している。引き取り証明を確認し、聞き取り通り実施されていることを確認した。</p>
4. 飼・餌料	<p>飼料は成長段階にあわせた品種を飼料供給先から購入している。購入記録ならびに給餌、栄養剤等の情報は「養殖管理システム」に記録されている。</p> <p>生餌、生物飼料の使用は無い。</p> <p>購入記録ならびに餌の安全証明書が適切に保管されていることを確認した。</p>

5. 食品安全	<p>水質管理は、自治体や水産試験場が公開するものを確認している。</p> <p>「衛生動物対策に関する指針」に基づき、防虫防鼠対策を講じ、衛生的な飼育環境を維持している。</p> <p>投薬、休薬は法に基づき実施し、記録は全て「養殖管理システム」で確認が可能である。</p> <p>勉強会を実施し、データや動画を含め情報提供を行い、従業員がより理解し実践しやすいように工夫がなされていた。また、日々のミーティングでも指導や情報共有がなされていた。それらが従業員の意識向上に繋がっていることを、聞き取りで確認できた。</p>
6. 安全衛生・労務管理	<p>安全対策は適切になされており、安全を確保できる状態であることを目視で確認した。台風対策のガイドラインも設定し共有されていた。</p> <p>労働災害事故が1件発生したが、是正措置と記録は適切になされていた。設備・装備に関する事故であったことから、重点的に再点検と対応を行った。</p> <p>特殊技能については安全講習受講が行われていた。</p> <p>労働環境も全般適切に管理がなされている。児童労働、強制労働、拘束、差別などもない。ハラスメントに対するしくみとして弁護士相談窓口を設けた。また、弁護士によるハラスメントの勉強会も実施した。従業員はハラスメント対策のしくみがあることを認識し、またハラスメントに関する理解も適切であることを聞き取りで確認した。</p>
7. 社会経済的側面	<p>法令順守の下、地域社会や利害関係者と良好な関係を維持し、養殖事業を実施している。行政や地域への協力も積極的に行っている。</p> <p>組織内においても、SCSA 認証取り組みの意義を強く示し、組織全体で積極的な取り組みが見られている。</p> <p>内部監査は実施されていたが、労働災害事故を受けて船上の設備・装備に関する確認に集中した内容であった。審査後、トレーサビリティを含む養殖管理についての内部監査が適切に実施されたことを確認した。</p>
その他、	
安高水産有限会社の SCSA 認証の継続を推薦する。	

5. レビュー及び認証決定プロセス

審査レポートの確認と認証決定	
クライアントレビュー	2019/05/19 終了
ピアレビュー	2019/06/06 終了 (三重大学 鈴木 幸子氏)
パブリックコメント	2019/6/6 - 2019/6/12 問い合わせ 0 件
認証決定	2019/6/20 (佐藤 賢也)
認証有効期限	2023 年 5 月 1 日

6. 推奨する今後のプロセス

推奨する今後のプロセス	
初回審査	2018 年 2 月 28 日 (水)、3 月 1 日 (木)、2 日 (金) 実施
第一回年次審査	2019 年 2 月 27 日、2 月 28 日、3 月 1 日実施
第二回年次審査	2019 年 12 月～2020 年 2 月に実施
第三回年次審査	2020 年 12 月～2021 年 2 月に実施
第四回年次審査	2021 年 12 月～2022 年 2 月に実施
再認証審査	2022 年 12 月～2023 年 2 月に実施

7. 付属書

付属書
付属書 1：原則と基準チェックリスト (チェック結果)

8. クライアントレビューフィードバック

2019/05/19 (安高水産)フィードバック
【安高水産】 特に無し
【BVJ】 -